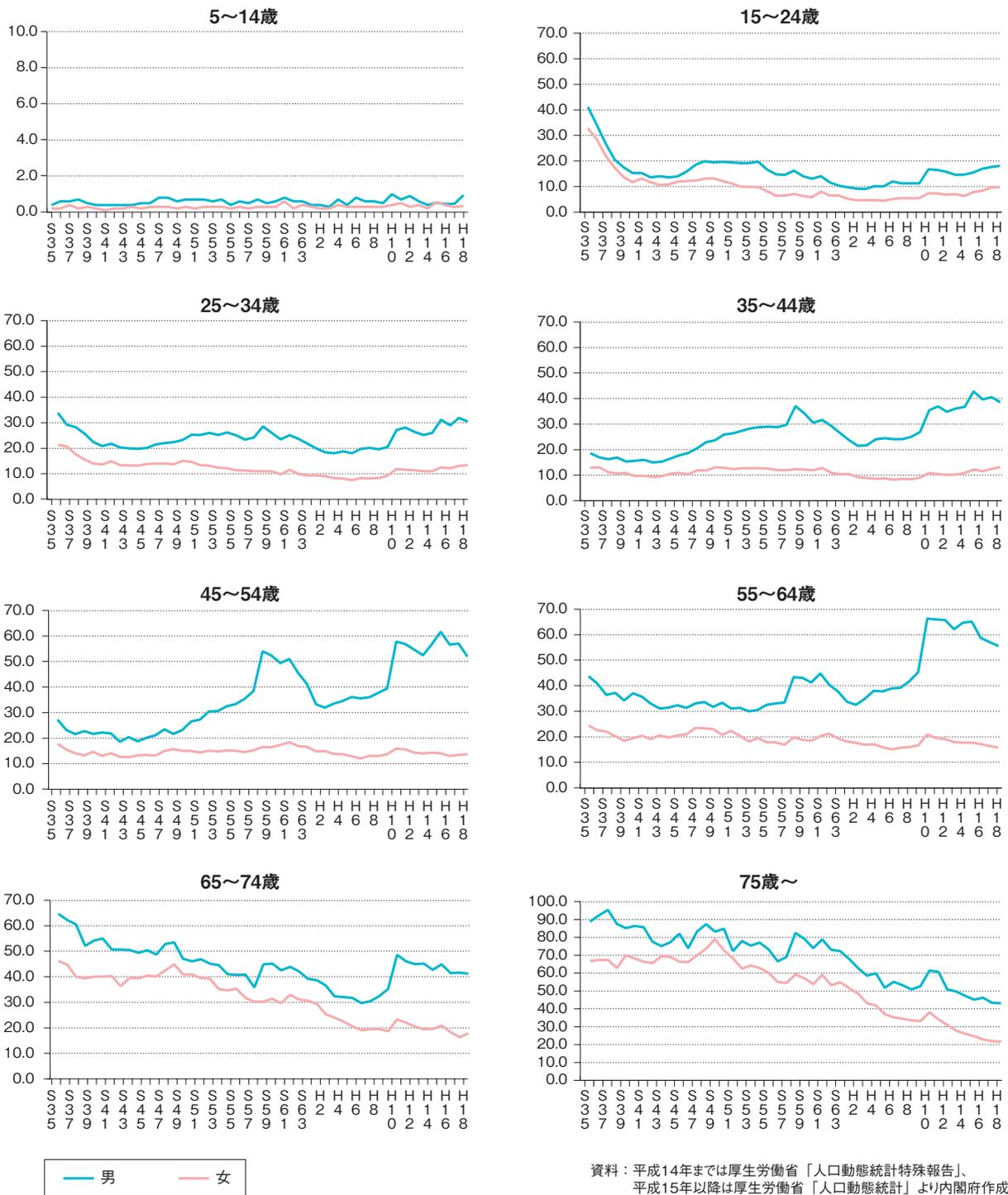


[第1-1-8図] 年齢階級別(10歳階級)の自殺死亡率の推移



COLUMN 1

出生コホートと自殺死亡率

出生コホートとは、ある一定期間内に生まれた人口集団のことです。平成10年の自殺死亡者数の急増は、中高年男性の自殺者数の増加が大きな要因になっています。自殺死亡急増に関係した中高年男性の出生コホートは、昭和30年前後に自殺死亡が急増した15歳～24歳を中核に

しており、第二次世界大戦後に、社会全体の大きな変化を小中学生の頃に経験した人たちののです。そしてこの人たちが、社会の変化の大きかった昭和30年前後、60年前後、平成10年以降の各時期に、高い自殺死亡率を示しているのです。

この例にも見られるように自殺死亡率にはコホート効果（世代効果）があります。自殺の危険因子には、性、年齢、人種、性的指向、自殺未遂歴、社会経済的変化、アノミー（人々の日々の行動を秩序づける共通の価値・道徳が失われて無規範と混乱が支配的になった社会の状態）があげられますが、自殺死亡率のコホート効果は、社会経済的変化とアノミー、すなわち社会の大きな変化が、ある出生コホートに強く影響した結果と思われる。

さて、自殺死亡率のコホート効果から私たちは何を学べるでしょうか。自殺は複合的な原因・背景のうえに起こります。戦争のような、国民と社会全体を強制的に巻き込む事態ではなくても、私たちの社会には、災害、事件、事故、社会構造の変化など、出生コホートに影響を与える出来事にたえず出会っていますし、これからも出会うことでしょう。少子高齢化が進み、個人と家族、社会との結びつきが弱くなった現代社会では、より大きくコホート効果が発現する危険性もあります。

今後、我が国は急速に高齢化が進みますが、現在高い自殺死亡率を示している中高年が老年期に入ることから、高齢者の自殺がこれまで以上に深刻な問題となるおそれがあります。また、近年、児童虐待や家庭内暴力をはじめとして、青少年の問題が顕在化していますが、このことも将来の自殺死亡率の増加につながるものが心配されます。

自殺対策は、出生コホートにも着目しつつ、その実態をきちんと分析しながら、中長期的視点に立って、継続的に進めることが必要です。自殺死亡率にコホート効果があることはそのことを教えてくれます。

<出生年別各年齢階級の自殺死亡率>

		年 齢 階 級													
		10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	
出 生 年	M39- 43年生	1.8	22.0	37.9	28.8	15.7	*	19.2	24.2	25.2	24.0	28.9	37.1	44.8	
	M44- T4年生	1.7	21.7	39.6	20.8	*	18.2	18.9	19.8	19.1	23.9	29.6	32.2	39.5	
	T 5- 9年生	1.4	22.9	20.7	*	19.9	19.8	15.4	15.5	18.7	23.2	24.7	31.5	34.8	
	T 10- 14年生	1.0	9.5	*	26.7	23.7	15.6	11.8	14.9	20.8	24.0	27.5	26.5	26.7	
	S 1- 5年生	0.7	*	36.3	41.3	19.9	13.2	13.4	20.5	23.6	30.5	24.5	22.5	30.4	
	S 6- 10年生	*	15.3	65.4	34.7	14.6	15.3	20.4	24.6	34.8	25.1	26.0	33.1	28.0	
	S 11- 15年生	0.0	31.7	51.3	20.0	15.3	18.5	22.1	31.9	25.0	28.2	38.5	28.5		
	S 16- 20年生	0.9	23.8	20.8	18.7	19.4	19.7	25.1	22.0	28.6	45.0	34.1			
	S 21- 25年生	0.6	7.4	17.5	20.7	17.4	18.0	16.3	21.1	37.9	38.3				
	S 26- 30年生	0.5	7.8	21.5	19.4	16.6	14.3	17.5	30.7	36.7					
	S 31- 35年生	0.7	9.7	18.0	16.8	14.2	15.1	23.7	33.6						
	S 36- 40年生	1.1	7.3	14.4	13.4	14.5	21.5	29.0							
	S 41- 45年生	0.6	5.1	10.6	14.0	20.2	24.4								
	S 46- 50年生	0.8	3.8	11.4	18.1	23.1									
	S 51- 55年生	0.6	5.0	16.0	22.0										
	S 56- 60年生	0.9	6.4	19.1											
	S 61-H2年生	1.1	7.8												
	H 3- 7年生	0.7													

昭和30年
昭和60年
平成12年
赤字 自殺死亡率40以上
紫字 自殺死亡率30以上

注) 人口動態統計により作表。*印は戦時中のためデータなし

(自殺予防総合対策センター)